

石垣島川平湾沖、モンゴル船籍漁船の座礁事故について

前 沖縄県石垣市農林水産部水産課
課長 平良 守弘



座礁したセファー号 2016.10.15

1 はじめに

2016年9月27日 沖縄県石垣市川平湾沖に台風17号の影響により座礁したモンゴル船籍漁船「セファー号」119トンに対する石垣市や石垣海上保安部の取組等について紹介します。

2 経緯

座礁した漁船は、日本で中古漁船を購入し、韓国経由アラブ首長国連邦のドバイに向けて航行中、台風17号の影響を避けるため、川平湾沖に停泊中、浅瀬に乗り上げた。

イラン国籍の乗組員7人は、市消防の水上バイクと八重山漁協所属漁船（育海丸）によって全員救助された。

当時現場海域は、南東の風35㍎で強い雨が降り、石垣島地方に暴風警報が発令されていた。



石垣海上保安部資料



景勝地：川平湾全景

3 石垣市の対応

座礁した位置は、石垣市の北西部の「川平湾及び於茂登岳^{かびらわん おもとだけ}」として国の名勝に指定されている川平湾から約1kmの川平湾口に存在し、石垣島を代表する景勝地への油流出の懸念と湾内で養殖されている黒真珠への影響が心配された。

座礁後、早速、9月29日に石垣海上保安部より『景勝地川平湾乗揚漁船「セファー号」に関しての留意について』と災害対策協議会のメンバー宛に「A重油26kl、潤滑油2kl」が搭載されているため、乗り揚げた状態では船体の破損等により搭載油の流出する可能性がある旨の協力依頼があった。

10月4日 石垣市庁舎内対策会議を行い、石垣海上保安部警備救難課の指導の下、横浜から油濁防止専門の海上保安庁機動防除隊からの説明を受け、今後の対応について話し合いが行われた。

4日にセファー号からの油流出が確認され、セファー号より南東方向に長さ300m、幅50mの範囲にカバー率20%、色彩E～E以下の帯状の浮流油が報告された。その報告を受け防除隊員により、座礁船を取り囲むようにオイルスキミングネットを設置し、浮流油を吸着して湾内への拡散を防ぐ対策を図り、さらには、船固用ロープ6本をセファー号に取り、横転を防ぐ作業を行った。

また、浮流油の回収作業には、油吸着マットが効果的なため石垣市対策委員会から、八重山漁協所属船（育海丸）や川平湾グラスボート運業者3社、また黒真珠養殖を経営する琉球真珠（株）に油吸着マットを配布し、万一の状況になった場合、対処してもらうようお願いした。

この間、セファー号の船主責任保険（PI保険）は、韓国寄港等、条件違反のため適応できないことが判った。（撤去予算、賠償責任で危惧する事になった！）

10月12日 石垣海上保安部にて対策会議を持ち、熱帯低気圧が石垣島南海上にあり進路が予測される事から、川平湾一体の漁業、観光、黒真珠養殖等への油漏洩による甚大な被害を事前に回避しなければならず、石垣市では、民間業者と契約を締結し、油抜き取り作業日程について早急に進めることを確認した。

13日以降、石垣港岸壁において民間業者の1,500t台船にパワーショベル1台、ドラム缶120本、コンプレッサー、油圧ポンプ、ホース、汚濁防止幕200m等、機材を搭載準備し油回収作業に向けて、波浪が収まるのを待った。



台船1,500 tを横付けして油抜き取り作業中、その横でグラスボートは観光案内営業中

17日 波浪が収まり、午前5時頃石垣港を出航し、午前7時に川平湾着、セファー号へ作業員や海保関係者が乗り移り、台船側にもドラム缶へ移す作業員を配置し、安全を確認しながら油抜き取り作業開始。

午後4時過ぎの作業完了まで、A重油10,190ℓ、海水混じり油8,000ℓ、潤滑油2,360ℓ、が回収され、燃料油等総量20,550ℓ、ドラム缶112本分を無事抜き取ることが出来た。その後台船を曳航し石垣港着岸は、午後7時を回っていた。これは、海上保安庁や民間業者始め、多くの関係者が協力する事で油抜き取り作業が成功裏に終える事ができたのは、言うまでもありません。

しかし、その後PI保険の適用が出来ないため離礁作業が行えず、セファー号が川平湾に居座ることになったのです。

18日 台船からのドラム缶運搬作業をはじめ、汚濁防止幕の撤去や道具の後片付け作業で終日作業が執り行なわれた。

今後は、油漏れ汚染による懸念は、回避されたがセファー号の離礁作業についてさらに協議会の中で話し合うことになった。

その後、地元新聞紙にも大きく掲載されたことから、水産面や観光面への打撃も懸念され、八重山漁業協同組合を始め、石垣市観光交流協会、川平公民館等の各団体から早期撤去の要請が行われた。

しかし、冬場の荒れた天候も災いし離礁作業の見通しは立たない状態が続き、海保が船体固定に使用していたロープ6本も2本しか機能していない状態で波浪による横転の可能性もあるため、早期離礁を急がなければならなくなりました。

11月24日 石垣市議会においても臨時議会で国と沖縄県の支援を求める要請を議決した。

12月5日 セファー号オーナーの一人（イラン人）と通訳兼作業員のイラン人が離礁作業の現場状況を確認するために石垣入りした。

石垣海上保安部で今後の離礁作業に係る日程を調整。

7日 イラン人作業員5人も合流し、セファー号の現場検証を行って、船底に穴が空いていることやその他、離礁作業に不具合がある所等を溶接作業しながら離礁に向けて、準備を図った。



セファー号に乗り組んで作業するイラン人メンバー

12月13日 波浪も良好で潮の状況に合わせ安全に離礁作業が出来る事を確認したので、急遽決定した。西表島から石垣港へ戻った民間業者のタグボートを川平湾まで廻し、曳航作業を行うことになった。沈没の危険も伴うことから、民間業者は、オーナーと曳航中の事故等の責任は一切負わない旨の覚書を交わして実施することになった。

タグボートは、18時現地着、海保巡視船の監視の元、離礁作業開始。船員の乗り込みやロープ渡し等は、川平地区の八重山漁協所属の漁船（育美丸）が随時サポートし、タグボートで牽引ロープを曳航して無事、セファー号を離礁させることに成功した。到着から離礁完了まで1時間のスピード作業となった。

19時の離礁作業完了から石垣港に向けて曳航し、22時30分に無事石垣港へ接岸する事が出来た。翌日から、外国への航海準備のため船底の確認やシャフト等の修理に係ることになった。



離礁作業に成功し、曳航されるセファー号

12月19日 石垣港岸壁で修理を行っていたがビザの影響でイラン人の作業員は帰国しなければならず、セファー号はそれ以来長らく石垣港岸壁で係留せざるを得なくなることは、この時誰もわからなかった。



石垣港岸壁に係留中のセファー号

4 おわりに

石垣島近海で起こった初めての座礁事故発生でそれも景勝地川平湾での座礁は、市内はもちろん県内でも大きな話題となり、早期対応が望まれました。

PI保険が適用されないという悪条件にも関わらず、早期の油抜き取り作業の実施は、石垣海上保安部の協力もあり、初めて実施する事が出来ました。

さらに、困難を極めた離礁作業は、座礁後2ヵ月半の時間が掛かってしまったが無事に作業完了が出来たのも民間業者の的確な判断や作業に関わった関係者の協力のお陰だと感謝しています。

特に、事件発生時の救難行為から離礁作業までの長い期間、漁船（育美丸）でサポートして下さったS氏には大変頭が下がる思いです。漁業者として自分のフィールドである川平湾を守るという熱い気持ちが伝わったからだと思います。

しかし、外国船ということから保険加入や思うような連絡調整ができず、今年7月末現在でも石垣港岸壁で係留されたままです。

二度とこのような座礁事故が起こらないことを祈り、コバルトブルーの海が永遠に続くことを願いながら、航海安全を強く願った事件でした。